



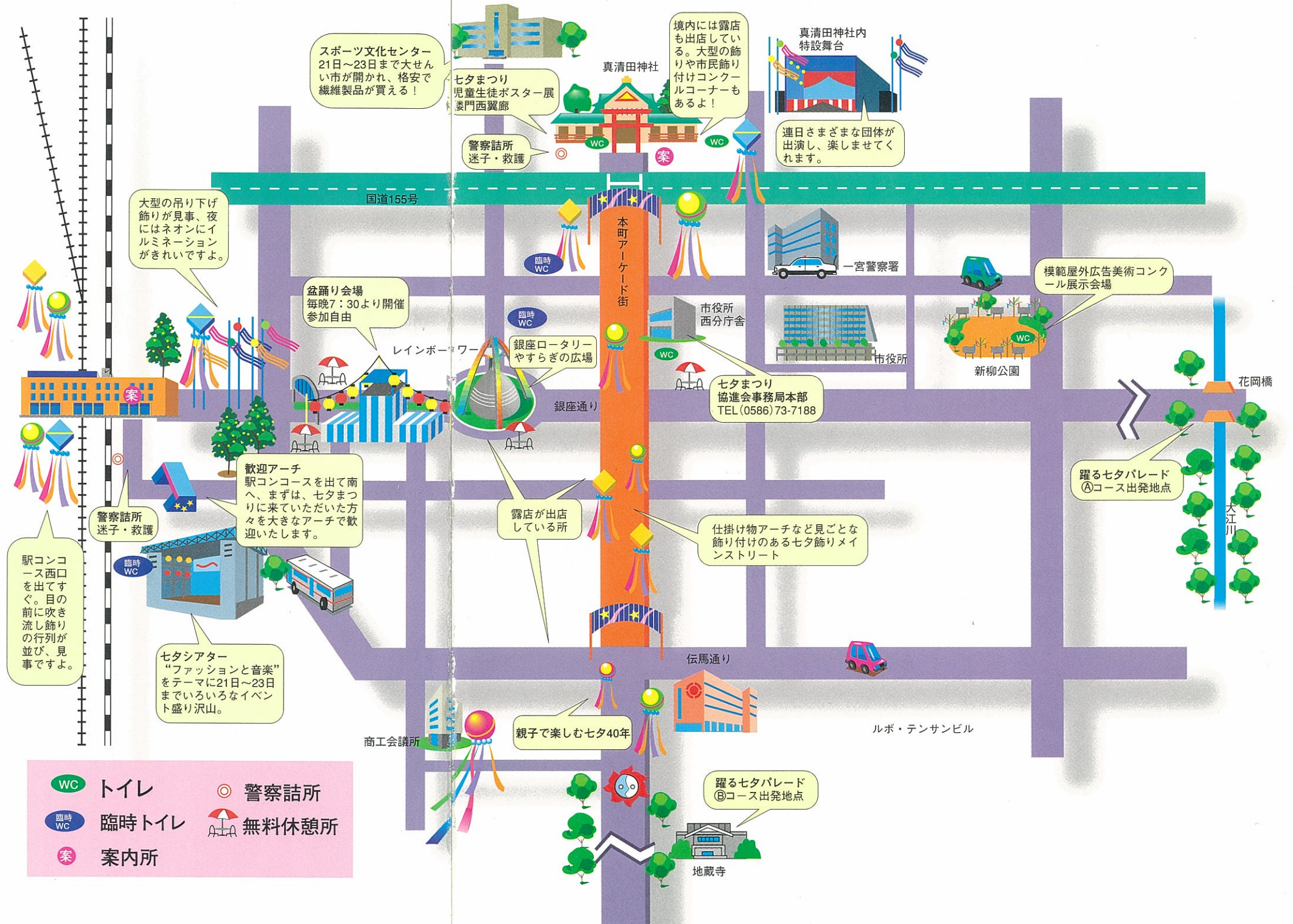
---

**一宮七夕まつり40年のあゆみ**

おりもの感謝祭一宮七夕まつり協進会

ごあいさつ..... 2  
 写真で見る一宮七夕まつり40年..... 3  
 1. 第40回記念七夕まつり..... 4  
 2. 昭和30年代の七夕..... 8  
 3. 昭和40年代の七夕..... 14  
 4. 昭和50年代の七夕..... 20  
 5. 昭和60年代～平成の七夕..... 26  
 6. 七夕関連PR用品..... 32  
 七夕の華～ミス七夕・ミス織物..... 34  
 1. 寄稿「私の七夕まつり」  
 2. 歴代ミスの紹介  
 座談会「回想・七夕まつり40年」..... 38  
 資料編..... 42

# 第40回記念一宮七夕まつりイラストマップ



戦後復興の兆しの見え出した昭和三十一年、地元商店街の皆さんが中心となり、明日の一宮の発展を願って、『おりもの感謝祭一宮七夕まつり』が始まりました。

現在と違って物資の乏しい中、互いに材料を持ち寄り一つ一つ手作りで完成されたと聞き及んでおり、当時のご苦労は大変なものであったろうと推察いたします。

永年の歴史を積み重ね、昨年は第四十回の記念すべき年を迎え、盛大に開催できましたことは、ひとえにこのまつりを支えていただきました役員をはじめ関係者各位のご尽力の賜物と深く感謝をいたしております。

さて、私ごとではございますが、幼いころ両親に連れられ、見物に訪れた一宮七夕まつりは、今でも心の片隅に残っております。月日は流れ、時代は移り、七夕まつりの飾りも年々豪華になってまいりました。しかし、その時代その時代における七夕まつりの情景が新鮮なものとして私の心に焼きついています。

今では、仙台・平塚と並び称されるほどに発展し、市内はもとより県内外から、多くの方々においていただき、大変喜んでおります。

今後ますますこの一宮七夕まつりが発展し、地域の活性化に役立ちますよう祈念いたしました。ごあいさつとさせていただきます。



一宮七夕まつり協進会会長  
一宮市長  
神田 眞秋

歴史と伝統を誇る繊維都市「いちのみや」の市民が、繊維産業の振興と地域の発展に感謝し、あすの繁栄を祈念するために総力をあげて開催している「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」は、昨年で四十回目の節目を迎え、一段と絢爛豪華に繰り広げられました。

昭和三十一年に、繊維の神様に感謝し今後の繁栄を祈念すため、織物と縁の深い牽牛・織女に因んだ七夕まつりを毎年継続することにより、ファッション・ネオポリス「いちのみや」を全国に宣伝して、商工業の飛躍的な発展をはかるとともに観光客の誘致に努めるとの趣旨で創設されて以来、毎年英知を結集され、燃える情熱と努力により「日本三大七夕まつり」のひとつとして数えられるほどに築かれました関係者の皆様から敬意を表します。

一宮商工会議所といたしましても、今年迎える創立七十五周年を機に、「一宮七夕まつり」を少しでも多くの皆様に知っていただき参加していただくために、一宮郵便局・一宮市・一宮七夕まつり協進会の共催で、一宮七夕まつり笹飾り短冊を全国募集いたします。これは、星への願い事を書いた笹飾り短冊を全国の郵便局を通じて公募するもので、優秀作品を選び、その作品を一冊の作品集として出版するものです。

今後とも、この歴史と伝統ある「一宮七夕まつり」が、自他共に認められる「日本の三大七夕まつり」としてよりいっそう称賛されるものとなるよう努力していく所存であります。



一宮七夕まつり協進会副会長  
一宮商工会議所会頭  
豊島 半七

このたび『おりもの感謝祭一宮七夕まつり』四十周年に際しまして、記念誌が発刊のはこびとなりましたことは、まことに意義深いものがあり、心からお慶び申し上げますとともに、この間における関係各位の御熱意、御尽力に対し、深く敬意を表する次第でございます。

さて、一宮七夕まつりは、当地方に古くから栄えた織物業の繁栄を祈念するため、昭和三十一年に創設されたことが、開催までの御苦労は大変なものがあつたことと存じます。同時期、市議会へも、全市民が挙って協賛し得る総合的な商工祭等の計画実現を求める内容の請願が出され、市議会としては、本市特有の織物を中心とする祭礼の早期実現をみることにこそ本市発展の基盤をなすものであるとの見地から、「これが実現をみるべきものと思わせられるので、すみやかに善処されたい」との意見書を市当局に送付しました。その後、幾度わたる関係各位の協議と努力の結果、記念すべき第一回七夕まつりが開催されました。

回を追うごとに飾り付けや各種行事も変化し、まさに一宮市の歴史とともに歩んできたまつりであり、近隣市町村はもとより、全国各地からの観光客に真夏のひとときの涼を与え、豪華けんらんな飾り付けは人々の目を十分楽しませてくれるものとなっております。最後になりましたが、関係各位におかれましては、この四十周年を契機として、本まつりのさらなる発展のため、今後とも御尽力を賜りますよう切にお願い申し上げます。お祝いの言葉といたします。



一宮七夕まつり協進会副会長  
一宮市議会議長  
水野 治一

写真で見る  
一宮七夕まつり  
40年



ミス七夕・ミス織物



躍る七夕パレード



本町通の飾り付け

# 第40回おりものの感謝祭 七夕まつり



御衣奉獻大行列



鼓笛隊のパレード



盆踊り



大せんい市



奉獻七夕飾り



親子で楽しむ七夕40年



オープニングイベント(七夕シアター)

40th  
Anniversary



本町通の仕掛け物

## 第40回七夕まつり主なプログラム

7月21日(金)

一宮七夕まつりオープニングイベント

- オープニングセレモニー
- '95ミス七夕・ミス織物紹介
- ゲスト [シェイプUpガールズ] [POSSE]

大せんい市

7月22日(土)

ミス七夕・ミス織物特別撮影会

躍る七夕パレード

- 音楽隊パレード

御衣奉献行列

大せんい市

7月23日(日)

躍る七夕パレード

- 民踊・ブラスバンド・みこし他

ミス七夕・ミス織物オープンカーパレード

大せんい市

7月24日(月)

ワッショ-いちのみや

7月25日(火)

ミス七夕・ミス織物チャリティサイン会

7月21日(金)~25日(火)

盆踊り大会

親子で楽しむ七夕40年 PaPa & Children

市民七夕飾り付けコンクール

団体等七夕飾り付けコンクール





オープンカーパレード



シャンソンコンサート



躍る七夕パレード

40th  
Anniversary



ファッションショー(七夕シアター)



## 七夕まつりの始まり

おりもの感謝祭一宮七夕まつりは戦争の傷も癒え始めた昭和31年、真清田神社の祭神、天火明神（あめのほあかりのみこと）の母神萬幡豊秋津師比売命（よろずはたとよあきつしひめのみこと）が織物の神として崇められていたことから、その加護と感謝をこめて市民の盛り上がりにより始まりました。

当時の市民生活は決して裕福なものではありませんでしたが、七夕まつりの開催は戦争で傷ついた街や人の心に確実に復興の槌音を響かせ始めたのです。

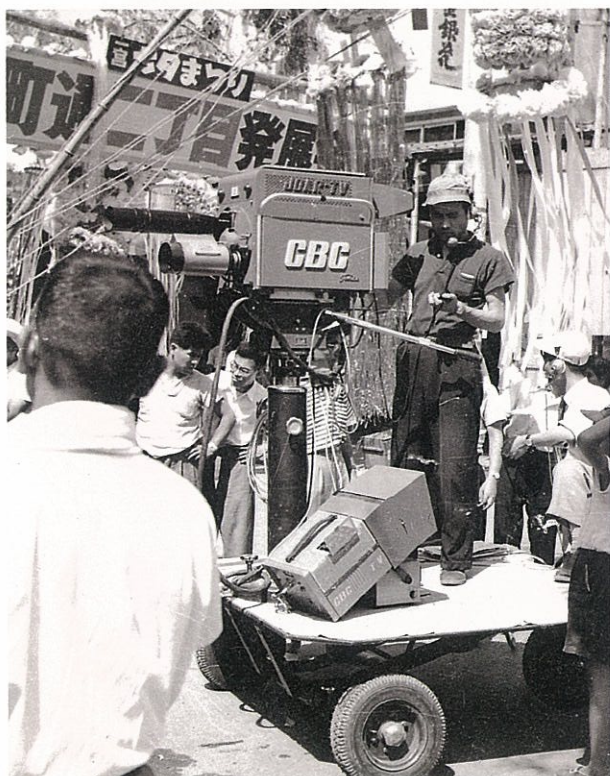


右上／第1回七夕まつりの商店街風景(昭和31年)。中／第1回ミス&ミスター一宮の行列(昭和31年)。右下／当時の市民の足は自転車でした(昭和33年)。左下／この頃の七夕飾りは60円から500円程度の安価な材料でできた折り鶴、くす玉、切子とうろうなどだったようです(昭和31年)。

# 復興の槌音



近所の仲間同士のスナップ写真。当時の本町商店街にはまだアーケードがないのがわかります。(昭和31年)



上／御衣奉獻大行列は七夕飾りでうずめられた本町通りをしずしずと北上し、真清田神社境内にお祀りしてある服織神社まで続きます（昭和33年）。右中／期間中の仮設織物特売場では遠来のお客さんが押すな押すなの大盛況（昭和31年）。右下／花嫁衣装の仕掛け物も登場（昭和30年代頃）。左下／第3回七夕まつりではCBCのテレビ中継が行われました。この2年後、NHKではカラーテレビの本放送が開始されます（昭和33年）。



右上／当時の人気テレビ番組「頓馬天狗」の仕掛け物（昭和35年）。右下／復興のシンボル・東京オリンピックも登場（昭和39年）。左上・左中／昭和30年代頃の仕掛け物。左下／御衣奉獻大行列の渡御では、氏子が真心こめて織った神様のお召物が奉納されます（昭和32年）。

# 復興の槌音

## ミス・コンテスト開催

七夕まつりの顔といえば、現在でもおなじみの「ミス七夕」「ミス織物」。しかし、七夕まつり誕生当時は「ミスー宮」「ミスターー宮」コンテストが行われていました。男性が出場するミスターー宮コンテストは当時でも珍しかったようで、参加者の募集には苦勞が絶えなかったようです。なお、ミス&ミスターー宮コンテストは第2回七夕まつりまで続き、現在の形式になったのは第3回からです。



# 七夕の主役

右上／ミス&ミスターー宮などの行列が延々1kmにも及ぶ、日本三大七夕まつりにふさわしい壮観さです（昭和31年）。右中／第3回のミス七夕・ミス織物（昭和33年）。左中／ミスは子供たちの羨望の的でした（昭和34年）。右下／ミスの選考会風景（昭和33年）。左頁上／第2回ミス&ミスターー宮が勢ぞろい（昭和32年）。左頁下／記念すべき初代ミス&ミスターー宮コンテストの表彰式風景。当時の伊藤一宮市長からミスー宮に選ばれた渡辺和恵さんに王冠がかぶせられています（昭和31年）。





## アーケードの設置

昭和39年の東京オリンピック、東海道新幹線の開通を契機に昭和40年代に入ると国内は急速に近代化の道を歩み始めます。一宮市も例外ではなく、昭和40年には名神高速道路が全線開通、昭和44年には名岐国道が全線開通しました。なかでも昭和46年に完成した本町アーケードは、まさに一宮市の近代化の象徴といえるでしょう。これにより、七夕まつりも飾り付けなどの形態に大きな変化が見られるようになります。



右上／第11回七夕まつりの風景。まだアーケードがないのがわかります（昭和41年）。中／本町アーケード街を行き交う人の流れ。この前年、本町にアーケードが完成しました（昭和47年）。右下／昭和45年の本町の様子。左下／真清田神社前でのパレード（昭和47年）。



# 近代化の軌跡

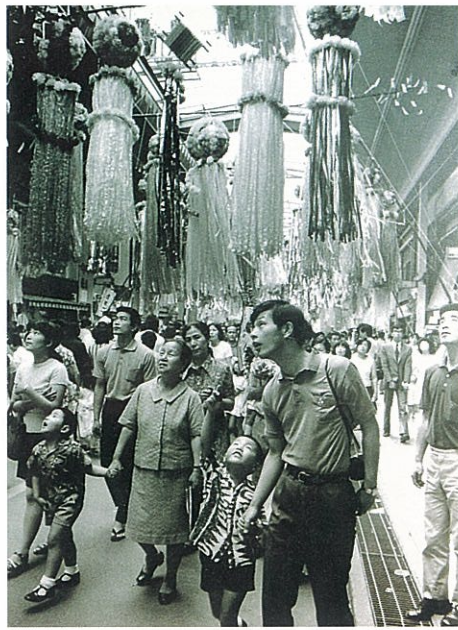


右上／女性の衣装にもミニスカート・ブームの影響が見えます（昭和47年）。右下／花傘おどりは七夕の名物のひとつ（昭和48年）。左上／完成したばかりのアーケードで行われたオープンカーパレード（昭和46年）。左下／第18回七夕まつりの様子（昭和48年）。



## 七夕まつりの隆盛

昭和46年の本町アーケード完成に伴い、七夕まつりもより近代的なまつりへと変貌していきます。七夕飾りもこれまでの沿道に設置するものからアーケードに吊すようになり、一層華やかな演出となりました。現在では誰でも七夕まつりといえば思い浮かべる光景ですが、当時はまだ珍しく、訪れた人々の感嘆の声と同時にアーケード見上げる姿があちらこちらで見受けられました。



右上／華麗な飾り付けを見上げる人々（昭和47年）。右中／外国人もこの飾り付けにはびっくり（昭和48年）。左中／園児たちも見学に訪れました（昭和47年）。下／駅前から見た商店街風景（昭和40年）。



# 街が高揚する



右上／当時の人気ヒーローが勢ぞろい（昭和47年）。右下／飾り付けも年々豪華に（昭和46年）。左上／いつの時代でも変わらない盆踊り（昭和46年）。左中／歌舞伎風の出し物も登場（昭和48年）。左下／この頃から仕掛け物はテレビの人気番組がメインになっていきます（昭和46年）。

## まつりを支える人々

華やかなまつりも、それを支えるみなさんの存在なくしては成立ちません。例えばミスセタ・ミス織物。セタまつりの宣伝・PR活動や期間中のチャリティー・サイン会、写真コンテストのモデルなど、彼女たちの果たす役割は大変大きなものです。他にも地元商店街や商工会議所をはじめとする方々、セタの飾り付けを行う職人さん、音楽隊やブラスバンド等のパレード参加者、そして市民の皆様とセタまつりは多くの人々に支えられています。



右上／ミスセタ・ミス織物による即売会風景（昭和42年）。左上／第13回セタまつりのミスセタとミス織物（昭和43年）。中／通りを練り歩く民踊グループ（昭和49年）。下／第15回セタまつりのミスセタとミス織物（昭和45年）。



支える人々

上／ミスセタ・ミス織物によるチャリティー・サイン会（昭和48年）。右中／花傘をかぶった民踊グループの一团（昭和48年）。右下／一宮市音楽隊によるパレードの様子（昭和49年）。左中・左下／珍しいセタの飾り付けの模様を納めたスナップ（昭和48年）。



笑顔との出会い

七夕まつりの魅力は、なにも絢爛とした飾り付けばかりではありません。まつりに集まる人と人、笑顔と笑顔の出会いこそがまつりを引き立てる最大の魅力といえるでしょう。年に1度だけ出会う牽牛と織女のロマンスのように、七夕まつりにはいつも人々のふれあいがあふれています。なかでも昭和54年は国際児童年ということもあり、子供たちの笑顔が印象的な年でした。



右上／憧れのミスと握手（昭和58年）。中／浴衣姿の女性と子供のふれあい（昭和58年）。右下／ミス織物を囲む人々（昭和56年）。左下／オープンカーパレードの1コマ（昭和55年）。



ふれあい讃歌



上／この年は国際児童年でした（昭和54年）。  
 右中／七夕を楽しむ親子連れ（昭和57年）。左  
 中／ミスと記念撮影（昭和57年）。左下／シャ  
 ツにサインを書いてもらう子供（昭和57年）。



上／ミス織物に抱かれて緊張気味？（昭和57年）。右中／まつりには世代を越えた魅力があります（昭和52年）。右下／七夕まつりは写生の絶好のモチーフだったようです（昭和55年）。左中／外国人観光客も大勢訪れています（昭和53年）。左下／子供たちによる武者行列（昭和55年）。



# ふれあい讃歌

右上／パレードでは子供たちも大活躍（昭和54年）。右下／パレードの子供たち（昭和52年）。左上／子供みこし（昭和56年）。左中／友人や親類が集まる場でもありました（昭和55年）。左下／大人顔負けの踊りを披露（昭和58年）。



## イベント花盛り

昭和31年に第1回を開催以来、40年の歴史を誇る一宮七夕まつりは名実ともに夏の風物詩として定着した感があります。しかし、ひと口に40年といっても、その間にはテレビ・ラジオの中継や公開放送はもとより、氷の彫刻コンテスト、クイズ、パフォーマンス等々実に様々なイベント、催し物がありました。また期間中、残念なことに雨や台風にたたられたこともあります。ここでは、そんなちよつと珍しいスナップを中心に集めてみました。

# 夏の風物詩



右上／この年は、あいにくの雨模様でした（昭和57年）。  
 右中／千円クイズ（昭和51年）とギネスブックに挑戦（昭和55年）。  
 左上／氷の彫刻コンテスト（昭和55年）。  
 右下／東海ラジオ公開録音（昭和54年）。  
 左下／C B Cラジオ公開録音（昭和56年）。





右上から／パレードの様子（昭和57年）。／こんな衣装を着たアイドルもいました（昭和50年）。／ミスのスタジオ撮影風景（昭和52年）。／息の長い人気キャラクター・ドラえもん（昭和56年）。左上／パレードの民踊グループ（昭和55年）。左下／森市長、ミス七夕、ミス織物によるオープンカーパレード（昭和57年）。

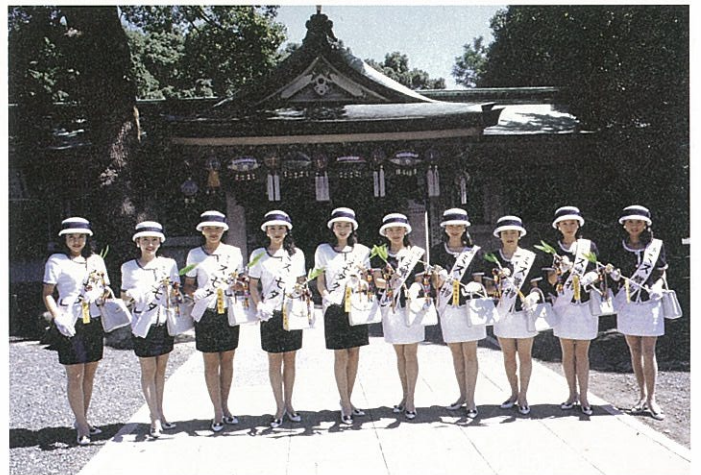
## 国際化時代の到来

昭和60年代に入ると、国際化の時代といわれるように七夕まつりにも一宮市国際交流協会をはじめ、多くの外国人の参加をいただくようになりました。これにより、七夕まつりは一層華やかで活気があり、国際色の強いまつりとなっています。なかでも躍る七夕パレードに参加している外国人のみなさんによる地球みこしは、現在では七夕まつりになくはならない呼び物のひとつです。



右上／一宮市国際交流協会による地球みこし(平成4年)。中／サンバ・チームの行列(平成5年)。下／世界各国の民俗衣装によるパレード(昭和60年)。

あ  
ふ  
れ  
る  
国  
際  
色



上/すっかり恒例となった地球みこし。右中/ミスの衣装にも国際化の波が(平成6年)。左中/アクロバティックな踊りで見物客を魅了します(昭和60年)。左下/躍る七夕パレードにはピエロも登場(平成3年)。

## 市民参加型のまつりへ

昭和60年代から平成の七夕まつりの大きな特徴は、それまでの見て楽しむ祭りから市民が参加して楽しむ祭りへの変貌でしょう。ミスや音楽隊などに加えて市民グループなどがそれぞれ趣向を凝らした衣装やみこしで参加する「躍る七夕パレード」もそのひとつ。また、七夕シアターでは地元企業協賛によるファッションショーや民俗芸能大会、コンサートなどが数多く繰り広げられるようになりました。



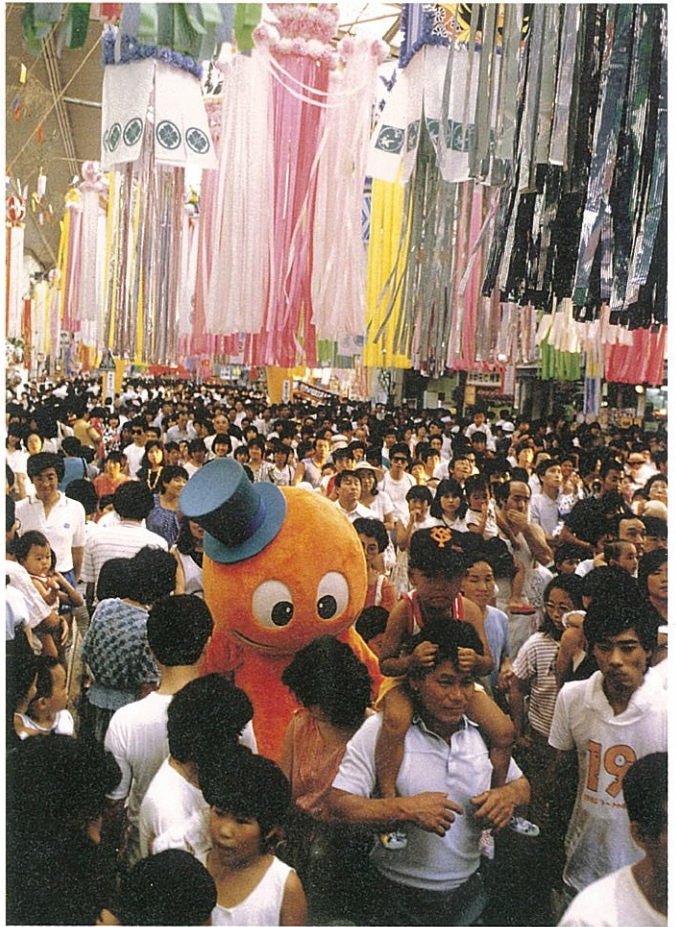
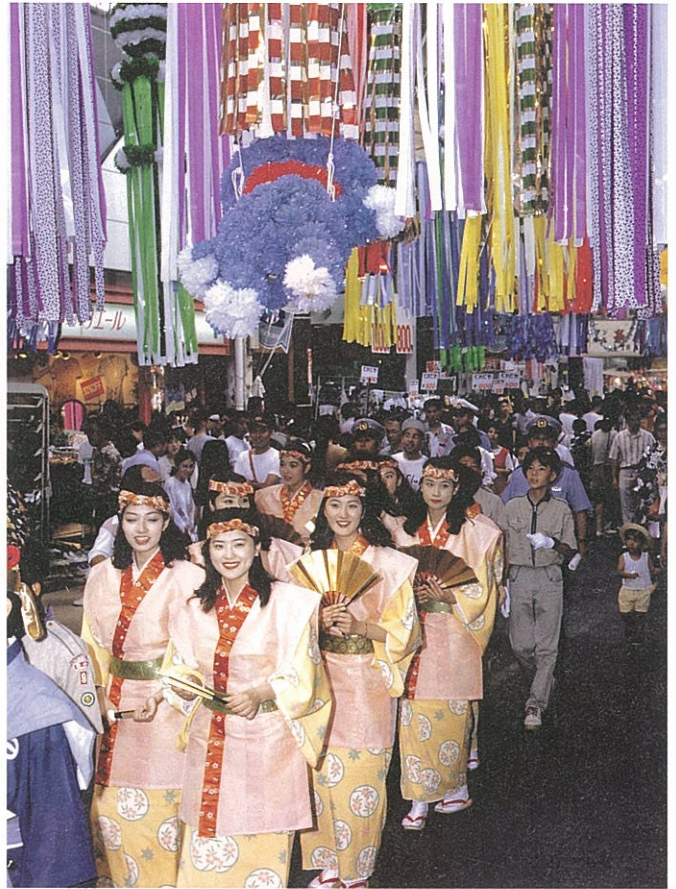
右上から／名古屋ファイヤーマーチングバンドの行進(平成2年)／御衣奉獻大行列(昭和61年)／民謡グループの行列(昭和62年)／バトン・トワラーズ(昭和62年)。  
左上／チア・リーダー(昭和62年)。  
左下／プラスバンド(昭和61年)。



手と手をつないで



右上／銀座通で行われる盆踊り（平成6年）。  
 左上／七タシアターのコンサート風景（平成3年）。右下／わかしゃち国体の開催を控えて（平成6年）。左下／オープンカーパレード（昭和61年）。



右上／伝統衣装も現代風にアレンジ（平成6年）。右下／大勢の人出で賑わう本町アーケード（昭和61年）。左上／人々の行き交う様子（平成4年）。左中／セブシアターのイベント風景。左下／みこしパレード（平成5年）。



# 手と手をつないで

上／まつりの熱気があふれる（平成6年）。右下／威勢のいいかけ声はまつりの華（昭和63年）。左下／レインボータワー（平成6年）。



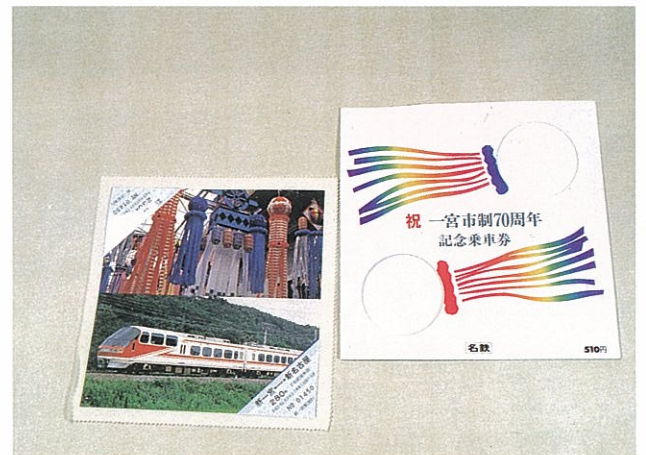
# 七夕関連PR用品編



七夕記念うちわ／左上から第31回、第32回、第33回、第34回、第35回。左下から第36回、第37回、第38回、第39回、第40回。



第40回記念おりもの感謝祭一宮七夕まつりの記念ビール。



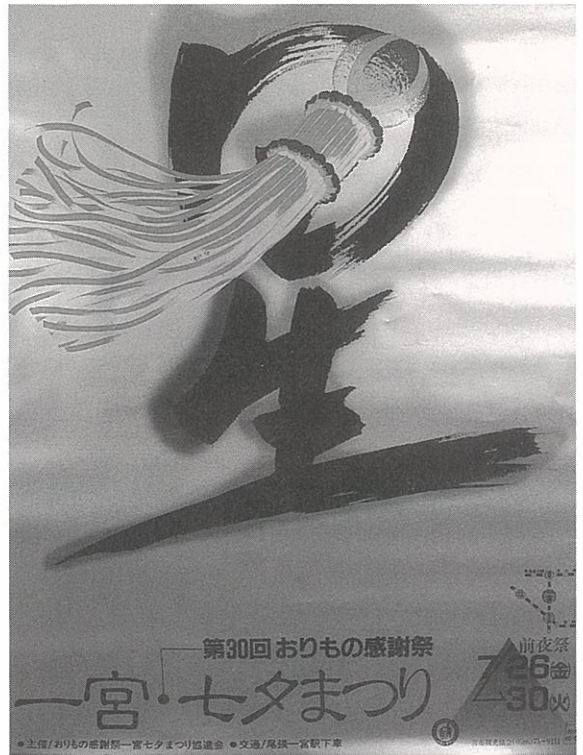
市制70周年を記念して布で作られた記念乗車券



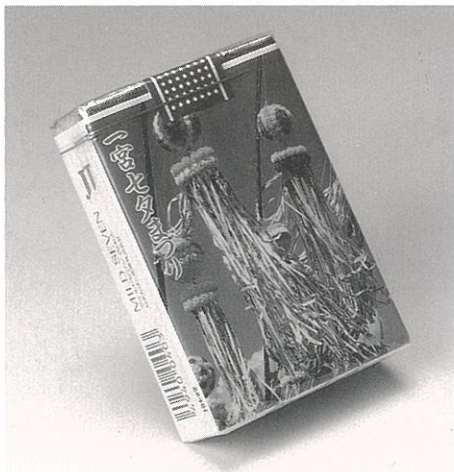
市制70周年の記念テレフォンカード



第40回記念一宮七夕まつりのポスター



第30回一宮七夕まつりのポスター



一宮七夕まつり記念たばこ



七夕グッズあれこれ/左上から記念メダル、記念ループタイ、PR用ポケットティッシュ、ステッカー。



記念たばこのパッケージデザイン/  
右から昭和63年度、平成2年度、平成5年度(贈答用)。

# 七夕の華

## ミス七夕・ミス織物

### ふり返って三十年



第10回（昭和40年）準ミス織物  
小林 喜美江さん  
（旧姓・浅井）

戦後五十年、豊かさの中で心を問う天災人災に、日本列島が揺れ動いている昨今です。我身の平和に感謝しつつ三十年前にタイムスリップをしてみました。七夕まつりのあの華やかで晴れがましいオープンカーパレード、人前に立つ恥ずかしさ、何ともいえぬ緊張感が甦ります。有り余る親の愛情の重圧に喘ぎ、何とか自立をしたいと思いますと思悩む二十才の私でした。ミス織物がきっかけで、私を一人の大人として、厳しく、又興味深く見る廻りの人の目に背筋がピンと張る思いでした。「これからは自分自身に責任を持つ、人から見られても恥ずかしくない中味のある女性（ひと）にならなければ……」と自覚した事を覚えております。一宮七夕まつりのイベントが、私にとって本当の意味での成人式であったと思います。今私はその日以来中味を磨くべく、東京世田谷で民生委員として福祉の勉強をしています。我故郷尾張一宮に栄光あれと祈つ。



平成4年



昭和31年



# 縄飛び

第25回（昭和55年）ミスセタ  
高田 久美子さん  
（旧姓・大島）

「おー寒む。こ寒むー」

今年も平成8年の縄を飛ぶかのように皆、一斉に飛び始めた。考えてみると、私も一宮の地を離れ、もう十二年間、この縄を飛び続けているのだ。縄を逆回しさせ、思い出を一年一年、十五年前までカウント・ダウンさせていくと……あー聞こえる！聞こえる！友達や回りの人達がしきりに私に質問してくる声が。『ミスになって何か変わった？』『ミスになって良かったことは何ですか？』などと。ミスという王冠が、いろんな言葉のプレッシャーで返ってくる。高校時代までの私は、自分というものがなく、ふわふわと浮遊していたと自分自身で思う。緊張と責任、そして数々の体験が、その後の私を少しずつ大きく、厚くしてきてくれた。この頃から、「自分をよく観察し私らしく、自我形成し始めた」と友達は言う。自分自身では、分からない。そうでありたいと思いつつも。四十才を迎える今、正しい自我形成を確立させる為に、まだまだがんばろうと思ひ、皆に続いて大きく、私も飛んだ。

## 歴代ミスの紹介

年代	ミス一宮	準ミス一宮	ミス二宮	準ミス二宮
第1回 昭和31年	渡辺和恵	石川博子 宇野和子	林 伸保	小栗政人 青山兼男
第2回 昭和32年	服部加代子	水野美代子 滝扶美子	青井敏一	吉田 登 馬場芳広
第3回 昭和33年	石原登美子	星野昌代 熊谷 香	村山雅子	速水講栄 大野祐司
第4回 昭和34年	石丸敬子	日根静枝 虫鹿千恵子	大川幸子	塩見正昭 丹羽士郎
第5回 昭和35年	鶴見 巴	加藤恵子 小川満寿美	川合美千代	塩見正昭 丹羽士郎
第6回 昭和36年	富田悦子	伊藤晴代 平子喜美子	金原悦子	米盛勝子 野崎富江
第7回 昭和37年	片岡皆子	藤井清子 西村節子	成瀬恵美子	渡辺慶子 加藤佳子
第8回 昭和38年	玉置恭子	森早智子 吉田富美子	森 靖子	川上つね子 林 孝子
第9回 昭和39年	間瀬美恵子	西田智枝 高橋初子	寺沢志津枝	伊藤二三子 白井則子
第10回 昭和40年	上野好子	三輪翠子 松井ひろ子	伊藤浩子	福江通代 秋田幸子
第11回 昭和41年	田中雅子	一柳扶美子 伊藤政子	松崎文子	堀田清子 山川千恵子



ミス七夕まつり



第40回（平成7年）ミス七夕クイーン

伊藤 夕起さん

私は一宮で生まれ、ずっとこの一宮で生活してきました。七夕まつりと言えば、夏休みに入ってすぐの大きなイベントって感じだったかな？ 友達を誘い、お小遣いをもらって、さあ何を食べよう。そんな感じで七夕まつりを楽しんでいました。今年ミス七夕という機会に恵まれ、違う角度から七夕まつりを楽しむ事ができた気がします。

七夕まつりまでの準備では、大勢の方に七夕まつりに来ていただけるよう、街角でキャンペーンをしたり、大勢の方々の協力で七夕まつりが行われている事を初めて知りました。九人のミスの仲間たちと七夕まつりを楽しむというより、楽しいものにしなれば！！そんな感じでした。今までとは全く違う七夕まつりでしたが、最高の思い出になりました。違った角度で七夕まつりを見てみるのもいいですね。

年代	ミス七夕クイーン	ミス七夕	ミス織物クイーン	ミス織物
昭和57年	杉本美幸	羽田野明美 春日井久美子	祖父江伸子	堀田正子 加藤元美
昭和58年	川瀬恵子	野草佐和子 曾我美智代	富田恵美	塩田恭子 藤本由美
昭和59年	中村深雪	服部真実 吉橋恵子	原 奈緒美	松本福子 樋江井映子
昭和60年	鶴飼左知子	白井弥生 浅井裕子	中川真由美	岡田理恵 井上由華里
昭和61年	後藤美春	打田美香子 鈴木清子	原 奈緒美	中神敦子 水野博美
昭和62年	中村美佐	大藪純子 戸田達子	中川真由美	丸井優実 古川千夏
昭和63年	森 三芳子	鈴木由美子 野萩薫子	岩田元美	林 恵津子 渡辺雅子
平成元年	松本敦子	伊藤彰子 三浦美佐子	加藤さゆ香	大江富子 塚原厚子
平成2年	新井英恵	吉川裕子 河合広美	岩田元美	田丸朋子 尾関真季
平成3年	西村育子	渡岡博子 千賀真由美	加藤さゆ香	塚本亜紀 小島直美
平成4年	澤田実名美	吉川裕子 河合広美	加藤さゆ香	三輪昌子 山内りえ
平成5年	中村純子	伊藤彰子 三浦美佐子	加藤さゆ香	仙田佳子 三輪容子
平成6年	鹿島 緑	高倉美香 玉野和子	岩田元美	高橋美智代 初山佳代
平成7年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	南 明子 浅野奈津子
平成8年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	堀場敬代 福田純子
平成9年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	川瀬有子 佐藤亜由美
平成10年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	大橋聡子 西村尚子
平成11年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	犬嶋ゆかり 小浦登紀子
平成12年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	水畑増美 今溝良子
平成13年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	吉田悦子 山並利江
平成14年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	長谷川由見子 廣嶋直子
平成15年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	小粥治美 島 直美
平成16年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	滝川理恵子 沓名由美
平成17年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	松原愛美 山田幸江
平成18年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	柴田周子 森田映子
平成19年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	林 智恵美 加藤麻弥子
平成20年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	金本裕美 前田悦芳
平成21年	伊藤夕起	高倉美香 玉野和子	岩田元美	渡邊由実 石川由紀

# 回想・七夕まつり40年

司会 「一宮七夕まつり」もお陰様をもちまして、四十周年を迎えることができました。まず、横井さんに昭和二十一年当時の思い出をお尋ねしたいと思います。

横井 七夕まつりの発想の背景には今の言葉で言う商店街の活性化・近代化があったわけです。その当時の一宮は非常に商業圏も沈滞していた時代で、何をやっても人が集まっていかなかった。何かないかということでした。いろいろ他都市等を見学したりしました。

その当時の会長だった木村さんと我々商店街の役員が仙台の七夕まつりを見学に行きまして、これは立派だなア、これなら人を集められるだろうということとで、第一回は仙台の七夕を模した物として開催したわけです。模したと言っても格段に差はあるわけです。当時は和紙でへす玉や吹き流しを作っていたわけですが、一宮でも和紙やカンナ屑の毛糸を吹き流しに使用したりして装飾した。

そのままで行くには名鉄さんの協力が非常に大きかった。名鉄さんの協力がなければとても実現できない、宣伝費も出ないということとで、土川さんから「それなら協力するから是非おやいなさい」といって、葉をいただきまして、期日



も宣伝も名鉄さんにおんぶして出発したというのが始まりになっています。

司会 名鉄さんに創設当時の様子などをお聞きしたいと思っております。

橋本 私の聞いてくる範囲内の話になります

が、やはり織物の街としての特長を生かしていかなければならないということとで、「ありもの感謝祭一宮七夕まつり」ができた。当社としては協賛はもちろんだ、宣伝を一手に引き受けようということでした。また、協賛の方でもミスの賞品なのか定かではありませんが、賞品集めにも一役買ったということがあったと思います。

司会 会議所としても一宮の活性化という意味で最初から七夕に関わり合いを持ってもらえたわけで、何か思い出話がありましたらお願いできますか。

原 商店街の夏祭りという形で、産地の「ありもの感謝祭」という冠をつけて七夕まつりが始まったわけですが、地元本町商店街の人達をはじめ、名鉄さんの努力は最大だったと思います。現在では確かに日本の三天七夕祭りの一つに数えられるほどにはなっているわ

## 「一宮の七夕まつり」の感謝祭

横井 確かに七夕は商店街だけのお祭りじゃないかというふうな批判は受けましたが、仙台や平塚の七夕に対して「一宮は独自」であり

もの感謝祭」というタイトルをつけたように、商工を言んだイベントをして市民の皆様が喜んでいただくというのが原点です。「大せうい市」にしても今日とは全然形態が違い、

当時は銀座通りでやっておりまして反物でほとんど売れましたのでね。そのうち二次製品まで扱おうようになって、話が違っちゃいかないかということとで問題になったこともありました。今日現在は違います。時代が変わりましたから。それも七夕の歴史の重要な問題

けですが、長い歴史の中にはいろんな意見も当然出てきました。飾り付けだけではなくて動くものがほしいとか、繊維業界の人達ももう少し積極的に参加したらどうか、

というふうな話もあつたわけですが、それはそれとして本当にここまでもつてきていただいたのは両者のご尽力でしょう。



司会 飾り付けや経費的な問題、また、商店街だけの祭りじゃないかというふうな批判もあつたと聞いておりますが、特に創設当時の苦労話がございましたらお伺いしたいと思います。

だと私は思っています。

それから雨の問題がありました。当時は和紙で飾り付けをしていたものですから、途中で雨が降ると飾りが溶けてみずけらいのものになってしまっただけです。そういうことで和紙から段々とセロファンやビニールに変化を

してきました。それから昔は第三日曜を基点にして開催していたわけですが、途中でどうしても第三日曜は入梅で飾り付けもままならないということとで、今の第四日曜に変更したわけなんです。七夕は動きより静の祭りです。二十四時間ずっと来てても見ていただけるというのが最初の基本

出席者

一宮七ツまつり協進会副会長  
一宮市商店街連盟会長

横井 新一氏

一宮七ツまつり推進部会部会長  
一宮商工会議所理事・事務局長

原 誠完氏

一宮七ツまつり宣伝部会部会長  
名古屋鉄道 一宮支配入室営業課長

橋本 次郎氏

第32回ミス七ツ

CARDE美佐さん

第39回ミス織物クイーン

加藤 智子さん

司会

一宮七ツまつり協進会事務局長

一宮市経済部商工課長

山本 幸雄

線で出発しているものですか、動く七ツというのは随分後になって入ってきたわけです。初め、飾り付けは各商店街で全部手作りをしていたんです。今のようにある程度業者に任せて作るというのは二十四、五年前から。今でも二丁目はほとんど手作り。仕掛け物はどうやっても我々ではできないから今は業者をお願いしていますが、あれも昔は我々で作っていたんですよ、動かないだけだね。やはり時代の変遷を申しましょか、予算の問題も生じてきて今日のような形に至ったということだね。

市と会議所の六十五周年に

飛躍を願う「躍る七ツパレード」

原 一番最初は竹飾り、笹飾りじゃなかったですかね。

横井 今はアーケードに上から吊ってますが、当時はアーケードも全天ではなく片側でしたから、アーケードの柱をトンネル状にくりつけていたわけです。ただ飾り物は一緒です。くす玉と吹き流しで数が多いか少ないかだけの違い。関東から以南では、こういった七ツは戦後初めて皆さん見られたということ、今と比べればちやちやなもので宣伝ものに行き渡らない時にびっぴりするくらい多い人が訪れたんです。

原 当初はお話にもあったように商店街の祭りだということがかく騒がれたわけです。そうじゃなくて、これは「おりもの感謝祭」という冠をつけている以上、産地、いわゆる商工も合わせて盛大にやるべきだと。そういったことで、服織神社というのはその後でできたわけですね。いわゆる真清田神社の天火

明神(あめのほあかりのみこと)の田神である萬幡豊秋津師比売命(よろずはたとよあきつひめのみこと)が織物の神様だというお話から、どうしても服織神社を設ける必要がある。会議所もそのために資金集めをしてね、七ツそのものを側面的に応援する形で作ったわけです。言葉は悪いですけど、こういった形で神社を巻き込んで展開している七ツまつりは一宮だけでして、他に誇れるものだろうと思っているわけです。

それと同時に静の飾り付けに対して動くものをやったりということ、当初から御衣奉獻大行列はあったわけですが、ちょうど市も会議所も六十五周年の時ですよ、今から十年前、「躍る七ツパレード」というものを新たに付け加えたわけです。躍るといのは飛躍の「躍」という字をわざわざ使っているわけですが、これは商工も合わせて一宮が飛躍発展するための「躍」、静に対しての動だということ、大変好評になりましたね。

司会 いろんな行事の話に入りましたので、七ツに華を添えていただいたミスのお二人に、思い出なり感激なりをお話いただきたいと思えます。旧姓中村さん、CARDEさんいかがですか？

CARDE 当時の思い出申しますと、ま

40年代後半までは臨時電車も走る

司会 旦那様のお国はカナダと聞いておりますが、カナダからもお客様が来ていただけるといいますか。

CARDE そうですね笑。実は田が岐出身で三ノ岐皇だったんですね。それで私が



ず審査の時が一番インパクトが強いですね。三ノに選ばれて両親が喜んで、それから祖母がすごく喜んでます。祖母はずっと一宮におりますので、先程の雨で和紙が駄目になったのを思い浮かべたのかどうか解りませんが、雨になるとせつつかくの晴れ舞台が駄目になる人もけっこう減るし、うちの孫がせつつかく三ノに選ばれたんだからって、ずっと審査に行つた時から神様にお参りしてたんですよ。その頃の七ツは必ず一日は雨になったんですよ。それが私の時は一度も雨が降らなかつたんですね。自分の孫が三ノの時は雨が降らなかつた」ということを祖母がすごく喜んでくれました、それが今でも印象に残っています。

七ツが始まってからは、「オープンカーパレード」を日曜日にやりました。実際、七ツまつりは子供の頃から母に連れられて見に来てますけれども、こんなに沢山の人が遠いところからも来てくれるんだという、その感激がすごく大きいです。ずいぶんだなアというのを改めて感じましたね。

一宮出身でミス七ツ。もし私に女の子が生まれたら、ミス七ツに応募させて一宮の活性化に一役買わせてもらいたいと思ってます。

司会 ありがとうございます。それでは一番最近のミス織物クイーンに加藤さん、キャラ



パンの苦労話など印象に残ることがあります。たからお願います。

**加藤** 私達の年はとても暑くて、水不足が重なってすごい猛暑だったんです。キャラバンでは駅などでキャンペーンを行う時にも暑い顔はできないですし、笑顔第一で「七夕にお越しください」とってキャンペーンしたのが一番印象に残ってますね。それから普段では入れないよ



うなところに入らせていただいたり、回ったりましたことも楽しい思い出になっています。**司会** ミスになる以前と以後では何か変わりましたことはありますか？

**加藤** そつですね、皆さんおつしやるほどはないんですけど、近所のおばさんとかおじさんが会う度に「おめでとつ」と言ってくれることがとても嬉しかったですね。

**司会** 祭りはもともと参加するのことに面白味があるんだと思うんです。そつした意味で、これらの「躍る七夕パレード」をどんな風にしていったらいいのかが、意見を聞かせてください。

**原** これで十年の歴史ができたわけですが、当初は紆余曲折していましたね。例えば衣装をそろえるのが案は出てくるわけですが、あの暑さに耐えるためには軽装、できれば脱がせるほうが良さそうだな。昨年でもできれば裸、女子を脱がせるわけにはいきませんので、男性諸君はふんどしになれ、いわゆる国府宮の裸祭りのな考え方をしたんですが、どつしても

若い人の中には抵抗があまりしてね。法被を一部着たり、ふんどしにならずにショートパンツをはいたりということになったんです。せつかへ皆さんにお越しをいただくんですから、奇抜性とか、観光客にあつと驚いてもらうようなものをと、参加していただく各企業に事前にお願いをしているんですけどね。

一宮に転動で来て祭りに参加していただいて、また全国へ転動が変わつていかれる。そつうい人達から絶えず年賞状とか暑中見舞いをいただくんですが、あの時は楽しかったとか、一宮の七夕がもう一度見たいとか、そんなことを一行したためてくださるのが実に嬉しいですね。

**司会** 名鉄さんも随分お客さんを運んでいただいて、土・日曜日などの人も大変だろつと思ひますが、その辺の苦労話がありましたらお願いします。

**橋本** 私共の会社は公共交通機関でございまして、当然地域の方々に愛されて会社がなりだつていけるわけです。私が入社した当時のことを思い浮かべますと、一宮の駅は島式のホームとして尾西線と本線が乗り入れていました。今は上り下りという形になりましたけれども、当時はホームが狭いということもあり人が溢れておりまして、お客さんの安全を第一にかなりの混雑整理員を動員したということがございまして。それと同時にエピソードと

いますか、これも聞いた話なんです、警察の方



があまりの混雑に線路に落ちたといつようなこともあつたそつです。当時は輸送力としても今のようないマイカーもあまり普及していない状態だったので、私共の電車、バスをほとんどの方が利用されたと思ひます。夕方のラッシュ帯などは電車が来てもホームからお客さんが途切れるといつようなことはないべらいつ人出でした。臨時電車も四十年代後半までべらいつは一宮津島間、本線は岐阜〜金山が神宮前通りだつたと思ひますけれども、運行していたといつことがあります。私の持つて来た資料によりますと、昭和五十四年当時は毎日約十二万から十三万五千人べらいつの利用者があつました。

### 市制70周年には

#### 地元の布を使った記念切符も

**原** 当時はホームにロープを張つて、線路に落ちないための措置を取つていただいたんですけど、それから名鉄さんのお骨折りで、地元の布を使つて記念キップを作つていただいたこともありましたね、市制七十周年だつたと思ひますが、僕も今でも大切に持つていけるんですけど、本当に意義のあることをしてもらつた。

ああいつ形でのキップといつのは全国的にもあるいは世界的にもあまり例がないんじゃないかと思ひますね。

**橋本** あの記念キップは退職されました田中さんが商工課の堀田さんと協力されて作つて



ていただいたと聞いております。随分苦勞して五千枚程作られたそつで、旅行センター等で発売したところ完売でございました。

**原** 同じよつなことを郵便局さんにもやつていただきましたね。七夕のフの記念切符をお作りいただいたといつ記憶がございまして。

**司会** 現在、七夕まつりの人出は百五十万人といつことで発表させていただいておられますが、東海地方でも恐らく五日間で百五十万人を集めるよつなイベントといつのはそつざりにはないと思ひます。今年、七夕まつりは四十一回目を迎えるわけですが、さらに五十回百回と伝統的な祭りとして発展させていく意味で、これからの七夕まつりにつてご意見を聞かせたいと思ひます。

**加藤** 県内だけではなく岐阜とかも回るんですけど、もう少し足を伸ばして東京とか大阪などでもキャンペーンをしたらいんじゃないかなと思ひます。夏休みに入りますから、もしかしたら足を延ばして来られる方もいらつしやるんじゃないかな。



CARDE ちよとご私の時には「ズームイン朝」というテレビ番組で三大七夕、仙台と平塚と一宮で三元中継を行ったんですよ。や

## 七夕は「夢をかなえる」祭り

はり電波や、あるいは流行っていますインターネットを利用したらいいんじゃないかと思

横井 夢をかなえる、願い事をするというふうなことが大事ではないかと思えます。一宮の七夕が始まればみんなが来たくなる、そういった魅力をもっとPRすることですね。今の時代はPRの時代です。金はかかるがPRをしなければいけない。しかし、来てがっかりするようないけはだめです。最終的にはお金の問題もありますが、昨年以上にやり良くなっていかないといけないですね。同じことをやっている、なかなか今年は立派だとは言ってもうえないわけです。

司会 会議所さんの方で全国からの七夕短冊の大募集をやろうと、今、準備をされているようですが、その辺りのお話を伺いたいと思います。

原 七夕はもちろん一宮をあげての祭りであることは事実です。一宮の人で七夕を知らないという人は一人もいないと思います。しかし、全国津々浦々まで知れ渡っているかというところではない。また、七夕そのものにしても誰しも子供の頃に短冊に願い事を書いたりしたことはあると思いますが、成人になると忘れちゃったんですね。そこでもう一度子供に帰って童話の世界に案内しようというところで、全国には一万四千程の郵便局があるんですけど、そういうところに協力いただいて、全国から一宮の七夕まつりに飾りとして自分の願い事をしてだめでもりつたり

うかと、そんな発想が出てきました。六月三十日まで募集ということ、現在全国に送る準備を着々と進めているわけです。服織神社の前に飾るとか、あるいは奉納するというような形を考えております。合わせて一宮出身の全国に知られている知名人の方、例えば相撲の朝乃若とか、デザイナーの森英恵さんとか、経済評論家の田中直毅さんとかに審査を手伝っていただいて、優秀な賞をとられた方は交通費こちら持ちで七夕まつりに招待するということも考えております。

今後もテーマを設けながら毎年募集するようになりたいですね。結構お金がかかりますが、会議所の経費節約をしながらでも是非続けていって全国一宮の七夕まつり、併せて地域の産業の織物を知っていただきたいと思えます。司会 ありがとうございます。橋本さん、いかがですか？

橋本 宣伝に関しては電車やバスの車内、あるいは各主要駅などでポスター関係等のPRは今後も大いにしていきたいと思っております。私なりに今後の七夕まつりへの要望を申し上げますと、非常にお金がかかってくるので何ですが、やはり今のアーケード街では雨の心配がないわけですから、和紙の飾り付けが一番喜ばれるんじゃないかと思えます。それと今キャラクターでいろいろ回られますけれども、遠くから来てもらうにはやはり旅行工


ーシエン卜関係にある程度チラシとかを送付して協力をお願いすることも必要じゃないかと思えます。

司会 全国からお客さんを誘致するという大変夢の多い話に発展してきたわけですが、最後に原理事さんに締めくくっていただこうと思えます。

原 やはり市民の祭りということ、もう少し裾野を広げるといふか、広がりがほしいような気がしますね。本町通りに人を集める手段の一つとして、せつかく木曽三川公園三派川地区センターにあれだけの広場があり、ツインアーチ138は一宮のランドマークとしてあるわけですから、あの辺に人を引き付けておいてシャトルバスで運ぶとか。いろんな特色を出しながら、とにかく一宮に人を集めることが必要じゃないのかなという気がしています。いずれにしても今年できないことは来年、あるいは再来年というように将来につないでいくことが大切だと思います。司会 一宮市の発展、地域の活性化のために、これから関係者の皆様方の絶大な協力の基に日本一の七夕まつりと言われるような姿にもっていかねばと思っております。本日はお忙しいところでもありがとうございます。




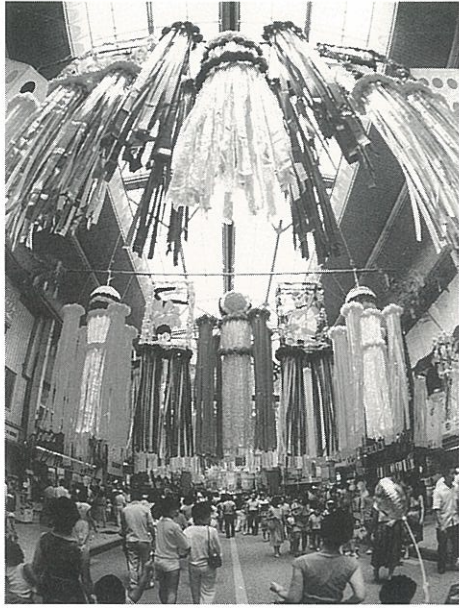

第6回 1961/昭和36年 7月14日～17日	第5回 1960/昭和35年 7月15日～18日	第4回 1959/昭和34年 7月17日～20日	第3回 1958/昭和33年 7月18日～21日	第2回 1957/昭和32年 7月19日～22日	第1回 1956/昭和31年 7月13日～16日	日時 (前後をきむ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・服織神社奉賛会によって、服織神社建立地鎮祭が行われた</li> <li>・七夕まつりの行事として、東海三県下のミス親善交歓大パレードを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕の飾り付けの中に、当時鞍馬天狗のパロディー番組として人気を博した頓馬天狗の仕掛け物が登場</li> <li>・NHKテレビによって七夕まつりの実況中継が行われ、七夕芸能発表会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミスの名称が変わり、ミス七夕5名、ミス織物5名を選出</li> <li>・七夕まつりのPRとして、飛行機による宣伝を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミスター一宮が廃止され、代わってミス一宮5名、ミス織物5名となった</li> <li>・この年、初めてOBOテレビによって七夕まつりの中継が行われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回と同様に、ミスター一宮5名、ミス一宮5名を選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミスター一宮5名、ミス一宮5名を選出し、前夜祭には体育館においてミス・ミスター一宮の発表を行った</li> </ul>	<p>主な催し物等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全都市宣言</li> <li>・集中豪雨で災害救助法発令</li> <li>・第一室戸台風でこの年2度目の災害救助法発令</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所新館竣工</li> <li>・東部下水終末処理場完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢湾台風で被害甚大</li> <li>・いずみ学園開園</li> <li>・神山小学校現在地に移転</li> <li>・今伊勢病院竣工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六丁山ごみ焼却場完成</li> <li>・「一宮市調査報告書」まとまる</li> <li>・富士小学校開校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真清田神社造宮第1期工事完成</li> <li>・本殿遷座祭</li> <li>・県立尾張病院竣工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内初の自動信号機設置</li> <li>・濃尾大橋完成</li> </ul>	<p>一宮市の主な出来事</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界初の宇宙飛行士ガガリン誕生</li> <li>・愛知用水通水式</li> <li>・夏に半袖ワイシャツが売り出される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第17回オリンピッククローマ大会</li> <li>・いわゆる「60年安保」</li> <li>・NHKカラーテレビ本放送開始</li> <li>・「だっこちゃん」流行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皇太子御成婚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一万円札発行</li> <li>・フラフープ大流行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧ソ連、世界初の人工衛星スプートニク1号打ち上げ</li> <li>・地下鉄、名古屋～栄間開通</li> <li>・五千円札、百円硬貨発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海道本線直流電化完成</li> <li>・第16回オリンピックメルボルン大会</li> </ul>	<p>国内外の主な出来事</p>

<p>第12回 1967/昭和42年 7月14日～18日</p>	<p>第11回 1966/昭和41年 7月15日～19日</p>	<p>第10回 1965/昭和40年 7月16日～19日</p>	<p>第9回 1964/昭和39年 7月17日～20日</p>	<p>第8回 1963/昭和38年 7月19日～22日</p>	<p>第7回 1962/昭和37年 7月13日～16日</p>
<p>・「ニッケアベック歌合戦」が、七夕まつり期間中に公開放送された</p> 	<p>・過去10年間、4日間で行ってきた七夕まつりの会期を5日間に変更し、会期の延長に合わせて内容の充実を図った</p>	<p>・服織神社が完成し、本殿遷座祭が行われた ・七夕まつりの行事として、バトンガールパレードを行った。</p>	<p>・七夕まつりのテーマソングとして「織姫音頭」「七夕の歌」「しあわせの星」二つが、人気歌手の舟木一夫と青山和子によってレコーディングされた ・服織神社の上棟祭が行われた</p>	<p>・この年、服織神社の起工式が行われた ・毎年、前夜祭に開催しているミス発表会の司会に柳と志男氏を迎え、バラエティー性を持たせて実施した</p>	<p>・民謡大会を開催 ・テレビ局（CBCテレビ）の公開放送として、シリーズゲームが実施された</p>
<p>・一宮市レクリエーション協会発足</p>	<p>・市立豊島図書館開館 ・青年の家完成 ・県立一宮西高校開校 ・県営一宮総合運動場できる</p>	<p>・名鉄東一宮線廃線 ・縫製工場団地完成 ・市の人口20万人を突破</p>	<p>・一宮インターチェンジ開通 ・国道22号、浅野まで開通 ・西部下水終末処理場運転開始</p>	<p>・産業体育館完成 ・「第2次一宮市調査報告書」まとまる ・一宮市斎場できる ・県立一宮工業高校開校</p>	<p>・一宮市文化団体協議会発足 ・既製服時代始まる</p>
<p>・日本の総人口1億人突破 ・ミニスカート大流行</p>	<p>・ビートルズ来日公演 ・全日空機墜落をはじめ、航空機事故相次ぐ ・ひのえうまで出生数激減</p>	<p>・名神高速道路全線開通 ・明治村開村 ・「JALPAK」海外旅行熱を誘う</p>	<p>・第18回オリンピック東京大会開催 ・東海道新幹線開通</p>	<p>・初の日米間テレビ中継でケネディ暗殺報道 ・名神高速道路開通 ・新千円札発行 ・NHK大河ドラマ「花の生涯」</p>	<p>・キューバ危機</p>

<p>第18回 1973/昭和48年 7月20日～24日</p>	<p>第17回 1972/昭和47年 7月14日～18日</p>	<p>第16回 1971/昭和46年 7月16日～20日</p>	<p>第15回 1970/昭和45年 7月17日～21日</p>	<p>第14回 1969/昭和44年 7月18日～22日</p>	<p>第13回 1968/昭和43年 7月19日～23日</p>
<p>・七夕協進会組織の整備を図り、現在の運営委員会を設置 ・会期をこれまで7月の第3日曜日を中心にしたもので、第4日曜日を中心とした5日間に変更した</p>	<p>・ミス七夕・ミス織物への副賞を「九州空の旅」に変更 ・初日と最終日に、打ち上げ花火を実施した ・この年からミス七・ミス織物らによるサイン会を開催するようになった</p>	<p>・市制50周年、七夕15周年の記念たばこを製作 ・ミスのキャラバン衣装に、初めてホットパンツを採用 ・本町通商店街に大アーケードが完成し、雨の心配がなくなった</p>	<p>・ミス七夕・ミス織物への副賞が大幅に増額され、賞金のほかに副賞の目玉として北海道旅行の招待券を贈る</p>	<p>・前夜祭に、ピクチャーの歌手・大竹伸子を招き、歌謡ショーを開催 ・ミスのキャラバンドドレスに、流行のミニスタイルを採用した</p>	<p>・市内の広告業社の技術の向上と都市景観の高揚を目的に、屋外広告美術コンクールをこの年から開始</p>
<p>・自転車安全利用モデル都市に指定 ・県立一宮養護学校開校</p>	<p>・大宮公園自動車整理場オープン</p>	<p>・本町通アーケード完成 ・市庁舎増築、10階建工事完成 ・市の木に「クロガネモチ」制定 ・末広小学校開校 ・第6代市長に森鈞太郎氏就任</p>	<p>・国道155号、一宮～津島間開通 ・せんい卸団地竣工 ・児童文化センター完成</p>	<p>・国道22号全線開通 ・一宮桜まつりはじまる</p>	<p>・一宮市消防署新庁舎完成 ・県道一宮・大垣線開通 ・県尾張繊維技術センター発足 ・丹陽中学校現在地へ移転</p>
<p>・オイルショック ・ベトナム戦争終結 ・江崎玲於奈博士にノーベル賞 ・学校群による初の高校入試</p>	<p>・浅間山荘事件発生 ・沖縄返還 ・冬季オリンピック札幌大会開催 ・旧日本兵、横井庄一さん保護 ・第20回オリンピックミュンヘン大会</p>	<p>・外国為替の変動相場制に移行 ・ボーリングブーム到来 ・ミニスカートにかわりパンツロング流行</p>	<p>・日本万国博覧会開幕 ・三島由紀夫、割腹自殺 ・ジーンズ流行 ・ポケットベルが普及しはじめる</p>	<p>・アポロ11号月面着陸 ・東名高速道路全通 ・国鉄等級制廃止、グリーン車登場</p>	<p>・川端康成ノーベル文学賞受賞 ・郵便番号制度発足 ・第19回オリンピックメキシコ大会</p>



<p>第24回 1979/昭和54年 7月20日～24日</p>	<p>第23回 1978/昭和53年 7月21日～25日</p>	<p>第22回 1977/昭和52年 7月22日～26日</p>	<p>第21回 1976/昭和51年 7月23日～27日</p>	<p>第20回 1975/昭和50年 7月25日～29日</p>	<p>第19回 1974/昭和49年 7月26日～30日</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・羊毛工業100周年と国際児童年にちなんだ飾り付けや行事を多数行った</li> <li>・せんい都市として第1回から続いてきた「織物大特売会」を「大せんい市」と改め、会場を屋外から屋内のスポーツ文化センターに変更した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前夜祭に東海ラジオの公開録音「今日はサニーメイツです」が市民会館で行われ、ゲストに三善英史、山本由香利が出演した</li> <li>・豊島図書館において「一宮七夕まつり回顧展」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・贈答用たばこに加え、観光たばこを協進会で作製する</li> <li>・市民や観光客が願い事を気軽に記載して飾り付けができるように、竹笹を「願い事」七夕飾りとして設置し好評を博した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国徳島の「阿波踊り」をもじって「阿波おどり」を開催。阿波踊りの尾張版ともいえるこの行事には、一般市民・観光客の飛び入りが相次ぎ、参加型イベント充実の機運が高まった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20周年記念行事として、親善都市の安城、刈谷、瀬戸、桑名、清洲、知立の6都市からミスを招き、自動車パレードを開催</li> <li>・同じく20周年記念として、七夕まつりに貢献のあった団体等約200団体に感謝状を贈呈した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前夜祭に行っていたミス七夕・ミス織物発表会の会場を体育館から市民会館に変更</li> <li>・ミスの衣装に、この年からロングドレスを採用した</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮地域職業訓練センター開所</li> <li>・第1回いちのみや緑とくらし展開催</li> <li>・浅井中小学校開校</li> <li>・県立一宮南高校開校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮市民憲章制定</li> <li>・スポーツ文化センター開館</li> <li>・大和南小学校開校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新編「一宮市史本文編」が完結</li> <li>・葉栗北小学校、西成東部中学校開校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が24万人を超える</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀座通り地下公共駐車場オープン、ロータリーの織姫の像復元</li> <li>・八幡地下道開通</li> <li>・西成東、今伊勢西小学校開校</li> <li>・県立一宮北高校開校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民会館が開館</li> <li>・光明寺緑地サイクリングロードがオープン</li> <li>・市の花に「キキョウ」を制定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話のダイヤル全国即時通話完成</li> <li>・日本電気、PC8001発売</li> <li>・パソコンブームの口火となる</li> <li>・木曾御嶽有史以来の初噴火</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県沖地震</li> <li>・サラ金問題おきる</li> <li>・ピンクレディ人気絶頂</li> <li>・成田新空港、開港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラオケブーム</li> <li>・王貞治756本塁打世界記録達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッキード事件発覚</li> <li>・1等1千万円のジャンボ宝くじ発売で死者</li> <li>・第21回オリンピックモントリオール大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次ベビーブーム</li> <li>・沖縄海洋博</li> <li>・エリザベス英女王来日</li> <li>・新幹線、博多まで開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン・ルバン島から小野田寛郎元少尉帰国</li> <li>・田中首相辞任、三木内閣成立</li> <li>・巨人、長嶋選手引退</li> </ul>

<p>第28回 1983/昭和58年 7月22日～26日</p>	<p>第27回 1982/昭和57年 7月23日～27日</p>	<p>第26回 1981/昭和56年 7月24日～28日</p>	<p>第25回 1980/昭和55年 7月25日～29日</p>
<p>・ミス七夕・ミス織物の副賞をこれまでの国内旅行からハワイ旅行へと変更した</p>	<p>・前夜祭で角川博などをゲストに迎え、東海ラジオ公開録音が行われた。また、銀座通り特設舞台でも高田みづえ、芹洋子などをゲストに東海ラジオの公開録音「トヨタ歌謡フェスティバル」が実施された</p>	<p>・市制60周年にあたるこの年は、東海ラジオ公開録音（ゲスト／田辺靖雄など）に加え、CBCラジオも公開録音を銀座通り特設舞台で2日間に行われた ・市民会館でも名古屋テレビの公開録音（新婚さんいらつしやい）が行われた。また、三船和子をゲスト審査員に迎え、市民会館でカオケのご自慢大会が開催された</p>	<p>・25回記念七夕まつりを祝い、近隣市町のミスを親善使節として招き、親善都市ミス自動車パレードを実施 ・東海ラジオの公開録音番組のゲストに、中原理恵などが出演した</p> 
<p>・全国高校総合体育大会開幕 ・丹陽小学校移転新築 ・県立一宮興道高校開校</p>	<p>・大和南中学校開校 ・県立一宮東養護学校開校</p>	<p>・弓道場改築オープン ・ゴミゼロ運動を実施 ・千秋東小学校開校 ・一宮地方総合卸売市場開設</p>	<p>・市民憲章シンボルマーク決まる</p>  <p>・一宮地域文化広場オープン</p>
<p>・東京デイズニールランド開園 ・おしんブーム ・大韓航空機撃墜事件</p>	<p>・ホテルニュージャパン火災 ・東北・上越新幹線開業 ・中曽根内閣成立 ・五百円硬貨発行</p>	<p>・米大統領にレーガン就任 ・神戸ポートピア開催 ・福井謙一氏にノーベル賞</p>	<p>・第22回オリンピックモスクワ大会（日、米、西独、中国不参加） ・山口百恵さん引退</p>

<p>第33回 1988/昭和63年 7月22日～26日</p>	<p>第32回 1987/昭和62年 7月24日～28日</p>	<p>第31回 1986/昭和61年 7月25日～29日</p>	<p>第30回 1985/昭和60年 7月26日～30日</p>	<p>第29回 1984/昭和59年 7月20日～24日</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前夜祭では桂銀淑をゲストに迎え、「一宮七夕まつり」RADIOおもしろコミュニティ」と題した東海ラジオの公開録音が行われた</li> <li>・「阿ほうおどり」として親しまれたパレードを「ワッショイーいちのみや」と改め、より盛大に開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾三川治水100周年記念の年にあたり、より盛大な七夕まつりが開催された</li> <li>・「躍る七夕パレード」に参加する企業・団体の充実を図り、特に花岡橋からスタートする団体数が増加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前夜祭にテレビ愛知の公開生放送が実施され、司会につばいノリオ、ゲストに松本典子、井森美幸を迎え、ちびっこ歌合戦が行われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第30回記念として、七夕まつりのメイン行事であるパレードの名称を「躍る七夕パレード」とし、ミスオーブンカーパレード、民踊大パレードをはじめ、市内の企業などの参加を得て、盛大に開催。また、パレードの出発地点も3ヶ所（地藏寺、花岡橋、旧人形町）に変更した</li> <li>・第30回記念行事としてスタンプリナー、レーザーシューウ（市庁舎西壁面）を実施</li> <li>・前夜祭にはテレビ愛知の公開生放送があり、ちびっこ歌合戦などが行われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香坂みゆきなどをゲストに迎え、東海ラジオ公開録音が行われた</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大成高校開校</li> <li>・市立病院新館開館</li> <li>・思いやり会館が開館</li> <li>・愛知県尾張繊維技術センター完工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮市保健センター開館</li> <li>・一宮市博物館開館</li> <li>・一宮シティマラソンはじまる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光明寺緑地野鳥園が完成</li> <li>・皇太子ご夫妻、ファッションデザインセンターをご視察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民情報オンラインシステムがスタート</li> <li>・新配水塔完成、通水開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションデザインセンター完成</li> <li>・市温水プールオープン</li> <li>・尾濃大橋開通</li> <li>・県一宮勤労福祉会館開館</li> <li>・光明寺緑地球技場オープン</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ドーム完成</li> <li>・第24回オリンピックソウル大会開催</li> <li>・青函トンネル、瀬戸大橋開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川進教授にノーベル賞</li> <li>・石原裕次郎さん死去</li> <li>・国鉄分割民営化、JRに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チエルンブイリ原発事故</li> <li>・三原山、大噴火</li> </ul>	<div data-bbox="782 1294 1050 1729" data-label="Image"> </div> <p>昭和63年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日航ジャンボ機墜落</li> <li>・つくば科学博</li> <li>・阪神優勝ファイバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植村直巳、マッキンリーで消息を絶つ</li> <li>・福沢諭吉など新紙幣発行</li> <li>・第23回オリンピッククワソアンゼルス大会</li> </ul>



<p>第37回 1992/平成4年 7月24日～28日</p>	<p>第36回 1991/平成3年 7月26日～30日</p>	<p>第35回 1990/平成2年 7月20日～24日</p>	<p>第34回 1989/平成元年 7月21日～25日</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンングイベントとして、きくち教児を司会者に「ものまね軍団クリソツツ」をゲストとして招き、楽しいトークとゲームのステージを展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮市制及び一宮商工会議所創立70周年記念として、躍る七夕パレードの充実をはじめ、尾張一宮駅前、真清田神社に大型の奉獻七夕飾りを設置</li> <li>・尾張一宮駅前に「七夕シアター」が登場。オープンングイベントとして、嘉門達夫を招いてトークと歌のステージを展開</li> <li>・シャトルバスを無料とした</li> <li>・ミス七夕・ミス織物の応募資格を変更し、年齢の下限を18歳以上とし、上限の24歳以下を廃止した</li> <li>・この年からミスのドレスに「モリ・ハナエ」ブランドを採用した</li> <li>・盆踊り会場をこれまでの銀座ロータリーから銀座通りグリーンベルト上へ移動し、より多くの観光客が参加できるようにした。これに伴い銀座ロータリーに電飾を施した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンングイベントとしてマルシアをゲストに迎え会場を市民会館から銀座ロータリー特設ステージに移し、ミスの発表会などのイベントを実施</li> <li>・無料駐車場と会場を結びシャトルバス(有料)を運行</li> <li>・躍る七夕パレードに加え、音と踊りを中心としたミュージックパレードを実施した</li> <li>・準ミスを廃止するなどミスの名称を変更し、ミス七夕クイーン・ミス七夕・ミス織物クイーン・ミス織物とした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀座通り、真清田神社に設けた特設舞台において連日多彩な行事を開催</li> <li>・銀座ロータリーで大道芸を実施した</li> <li>・たばこのパッケージを新たに作製した</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回一宮市民花火大会</li> <li>・ジャパン・テキスタイル・コンベンション始まる</li> <li>・市民防災センター開所</li> <li>・奥公民館完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市制70周年記念事業ゆめありすとフェスタ70開催</li> <li>・一宮市建築賞はじまる</li> <li>・森英恵、オリビエ・ラビドスを迎え第一回パリ・ファッションファンタジー91を開催</li> <li>・第四次一宮市総合計画策定</li> <li>・中央看護専門学校開校</li> <li>・いずみ福祉園開園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮市きぎょう会館オープン</li> <li>・鉄道高架事業でJR東海道本線下り線開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国営木曽三川公園やすらぎの広場着工</li> <li>・第7代市長に神田眞秋氏就任</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回オリンピックバルセロナ大会開催</li> <li>・学校5日制スタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲仙・普賢岳で火砕流</li> <li>・若貴ブーム、千代の富士引退</li> <li>・湾岸戦争</li> <li>・信楽鉄道で正面衝突</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ統一</li> <li>・天皇陛下が即位の礼</li> <li>・大阪で「花の万博」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和天皇崩御、平成と改元</li> <li>・美空ひばりさん死去</li> <li>・海部俊樹内閣誕生</li> <li>・世界デザイン博覧会開催</li> </ul>

<p>第40回 1995/平成7年 7月21日～25日</p>	<p>第39回 1994/平成6年 7月22日～26日</p>	<p>第38回 1993/平成5年 7月23日～27日</p>
<p>・この年から「躍る七夕パレード」を土・日曜日の2日間に分けて実施</p>	<p>・装飾の目玉として、銀座ロータリーに「レインボータワー」が完成 ・期間中ゴミのない七夕まつりを目指して「クリーンアップ」作戦を実施 ・七夕まつりプログラムを新聞折り込み広告として配布した</p>	<p>・第40回記念として「躍る七夕パレード」へ市内の保育園・小学校鼓笛隊などの参加があり、より一層の充実を図った ・特別企画として「親子で楽しむ七夕40年」コーナーを設置し、写真の展示や歴代ミスのドレスなどを展示紹介した ・七夕シアターにおいて「シエイプアップガールズ」を招きコンサートを開催したほか、「尾州ストッフ95」のファッションショーなどを行った ・ミスの特別撮影会においては、応募を2部門に分けて実施した ・40回を記念して、七夕まつりに貢献のあつた個人・団体・企業へ感謝状を贈呈した</p>
<p>・一宮市テニス場、光明寺公園球技場竣工 ・名鉄名古屋本線高架切り替え ・一宮シティーケーブル開局 ・一宮市テニス場竣工式 ・光明寺公園球技場竣工式 ・市役所、土曜閉庁</p>	<p>・第49回国民体育大会「わかしやち国体」開催 ・今伊勢分院に住宅精神障害者のためのデイケアセンター開設 ・人口27万人突破 ・東海北陸自動車道一宮ジャンクション着工 ・わかしやち国体「ソフトテニス」「ラグビーフットボール」開幕</p>	<p>・ツインアーチ138完成 ・今伊勢分院に老人性痴ほう疾患センター開設 ・「国営木曽三川公園三派川地区センター」と「ツインアーチ138」がオープン ・「いちのみやリバーサイドフェスティバル」開幕 ・鉄道高架全線完成 ・「平和都市」宣言、戦後50周年を記念して「タイムカプセル」を埋設</p>
<p>・阪神大震災 ・地下鉄サリンをはじめオウム事件白日の元へ ・野茂投手、大リーグで新人賞</p>	<p>・記録的猛暑、水不足深刻化 ・向井さん宇宙へ ・大江健三郎氏にノーベル文学賞 ・中華航空機、名古屋で着陸失敗 ・コメ不足で価格高騰 ・貴ノ花関、横綱に昇進</p>	<p>・皇太子さま、雅子さまご結婚 ・サッカーJリーグ開幕 ・曙関、初の外国人横綱</p>

あとがき  
一宮七夕まつり40年のあゆみを編集するにあたり、貴重な資料を提供いただきました、関係各位に対しまして、心よりお礼を申し上げます。

発行日  
発行

平成八年五月二十一日  
おりもの感謝祭

一宮七夕まつり協進会事務局

一宮市本町2丁目5番6号

一宮市役所経済部商工課内

05866-7319111



一宮七夕まつり40年のあゆみ

おりもの感謝祭

一宮七夕まつり協進会